英語科

教科領域研究テーマ
【自分の気持ちや考えを表現し，伝える力の育成】



英語科

自分の気持ちや考えを表現し，伝える力の育成

実　践　者　河野　　操，河野　圭美
愛媛大学研究パートナー　池野　　修，立松　大祐

第１章　はじめに

グローバル化，情報化の進展に加え，ＡＩロボットの登場など，社会や生活が大きく変化していくとの予測がされている。そのような中で，これから求められる学校教育は，そのような社会にいかに対処していくかという受け身の教育ではなく，未来社会を創造するために必要な資質や能力をいかに備えるかという積極的な教育である。中学校では東京オリンピック・パラリンピックが開催される翌年から，新学習指導要領が全面実施される。英語科の学習において，基礎的・基本的な知識・技能を活用して主体的に課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育成することは欠かせない。また，それらの力を備え，情報や考えなどを積極的に発信し，相手とコミュケーションを図ることが大切である。

本校では，持続可能性が危機にある現代社会において，子どもたちが現在及び将来にわたって「持続可能な社会を形成し，それを支え続ける」ために主体的に行動できる資質・能力を育てることが「未来を拓く力」につながると考え，研究を進めている。

英語科では，「持続可能な社会を支える資質・能力」として，自分の気持ちや考えを表現し伝える力を高めることが必要であると考え，「論理的に思考し表現する学び合いの工夫」や，「コミュニケーション能力を高める学習指導」，「パフォーマンス評価の充実」を研究内容とした。一昨年度からコミュニケーション能力を測るパフォーマンステストを取り入れた授業作りを行い，知識を活用して課題を解決していく過程において，生徒の思考力･判断力･表現力の育成を図ってきた。本年度は「読む」活動から「話す」活動につなげ，より現実的，実践的に論理的思考と表現力を育成する言語活動を取り入れたい。具体的には，教科書を使った問答ゲーム（相手からの問いに自分の考えをはっきりと分かりやすく伝えるゲーム）や話型を活用したディスカッション，読んで思ったことや感じたことを自由に表現させるフリーレスポンスなどの活動を通して，インタラクティブなリーディング指導を行う。

これらの実践を通し，自分の気持ちや考えを表現し伝える力を高めることが，持続可能な社会の形成につながるのではないかと考え，本研究テーマを設定した。

研究	研究者	研究テーマ	学年	単元名
その１	河野　　操	総合的な運用能力を高める言語活動の工夫	２年	Chapter 3　Lesson 5 Career Experience
その２	河野　圭美	自律的学習者が育つ英語授業 －インタラクティブなリーディング指導を通して－	３年	Chapter 3　Lesson 5 Stevie Wonder

第２章　研究の実際

研究（その１）

統合的な運用能力を高める言語活動の工夫

（実践者）河野　　操

１　研究テーマ設定の理由

高度情報化社会において，大量に氾濫する情報の中で，自分にとって必要な情報か必要でない情報かを取捨選択する能力が必要となってくる。また，個性や考え方が異なる他者のことを理解し，意見交換などを通して積極的にコミュニケーションを図り，よりよい関係を築こうとする態度も求められる。外国語教育では，これらの能力を高めるために，スキルの習得だけでなく，習得したスキルを生かし，互いの考えを理解し合い，折り合いをつけながらよりよい関係を築こうとする態度の育成を目指している。必要な情報を選び，よりよい人間関係を築こうとする態度は，「持続可能な社会」の形成に必要な資質・能力につながるものであると思われる。

本研究では，リーディングの活動を通して，まとまった英文の内容を理解し，内容について質問したり，要約したり，自分の意見や感想を論理的に述べたりすることができるような力を付けさせたい。そのためには，聴解力，読解力，作文力，口頭表現力などの統合的な運用能力を高める必要がある。その中でも特に，正確に情報を読み取る読解力，得た内容を要約してアウトプットするための作文力，口頭表現力を重視したい。多様な情報の中から必要な情報を受け取り，理解するとともに，課題を解決することによって，統合的な運用能力を高めることができると考え，本研究テーマを設定した。

２　研究の内容及び方法

(1)　論理的に思考し表現する学び合いの工夫

教科書の本文内容を利用し，内容把握や要約をしたり，内容について意見・感想を述べ合ったりさせる。内容把握に関しては，単なる読み取りだけにとどまらず，内容に関する質問を考えさせることにより，より深い内容理解を促したい。また，質問のタイプを事実発問，推理発問，評価発問の３タイプに分けて考えさせるなど，思考力の向上を目指す。また，場面のイラストをもとに，主語と動詞が整った英文を用いて場面を説明する要約文を作成させたり，内容に関する意見や感想を述べさせたりすることによって，論理的思考力の向上を育成したい。

(2)　コミュニケーション能力を高める学習指導

教科書の活動一つ一つは，各レッスンや単元における英語学習においてテキスト等とつながって重要な役割を果たしている。しかし，そこからさらに発展した内容や言語活動を駆使して，教室外での言語活動が可能となるような課題解決を目的とした活動が必要である。以上のことから，教科書の活動を基にして，どのような内容を組み込むことにより，また，どのように場面設定を工夫するかによって，課題解決型の言語活動とすることができるかを研究する。

(3)　パフォーマンス評価の充実

活動中に相互評価をさせたり，活動後に自己評価をさせたりすることにより，次の活動の改善に役立たせたり，よりよい内容の英文になるよう工夫させたりする機会を持たせる。今までできていなかったことが「できるようになった」，活動を重ねて「前よりよくなった」ということを実感させることは，生徒が自己の成長を確認し，次の活動への意欲を高めることにもつながる。

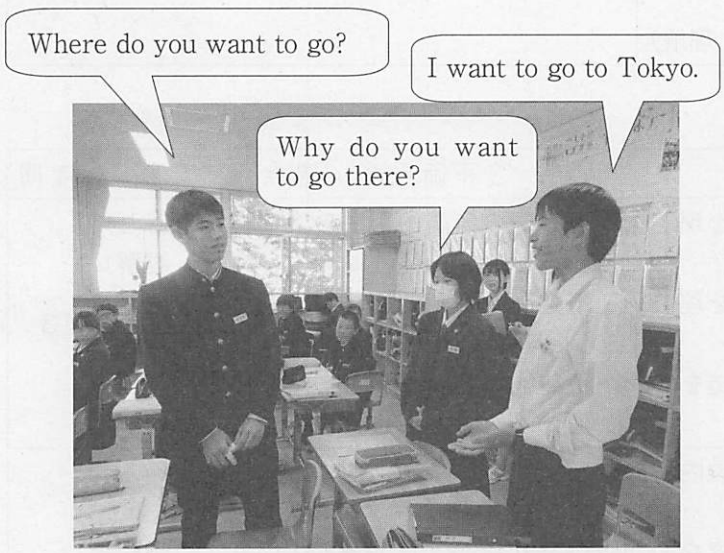
３　研究の実際

(1)　生徒の実態

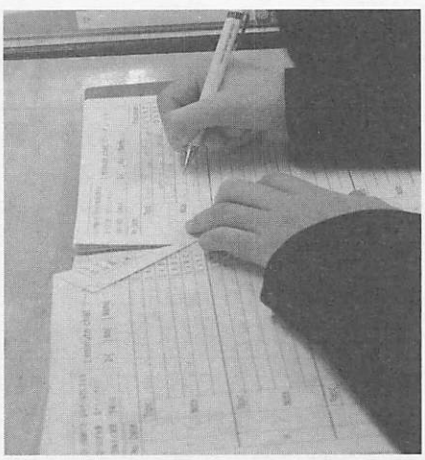
本学級の生徒（男子20名，女子20名，計40名）は，66%（26人）が英語の学習が楽しいと考えている。授業中の発言も比較的多く，友だちと協力して活動するチャットやグループ活動にも意欲的に取り組んでいる。全体的に，英語を聞いたり，話したりすることが好きであり，得意でもあると考えている反面，英語を書いたり，読んだりする活動は苦手と感じていたり，得意ではないと考えていたりする生徒も多い。また，もっと英語の発音がうまくなって，すらすら話せるようになりたいという思いや，外国の方に話しかけられたときに，とっさに応えられるようになりたいという願いも持っている。以上のことから，４技能を総合的に運用する能力を高めるための言語活動を設定し，生徒たちの目標が達成される指導の必要性を感じている。

(2)　論理的に思考し表現する力を高めるための工夫

相手が発言したことに対して，自分の意見を言うとき，あまり時間をかけずに即興で英文を作り，答える必要がある。そのために，日々の帯活動で，４人グループで２分間チャットをして，テーマに沿った内容で対話活動を行った。**（資料１）**チャットの中で，６W１Hをうまく使わせ，対話が進むよう指導している。まずは１分間 thinking timeを与え，テーマに関連する英文を考えさせる。また，発表後にワークシートに記入させることで，書いたことを読み上げるだけに終わらないように配慮した。**（資料２）**



資料１　グループチャットの様子



資料２　２分間チャットのワークシート

(3)　授業の実際

ア　指導の実際

(ア)　単 元 名　TOTAL ENGLISH 2 Chapter 3 Lesson 5 Career Experience

(イ)　単元目標

○「to＋動詞の原形」（不定詞）の３つの用法を理解し，より豊かに内容を表現することができる。

○職業体験学習についての対話や日記，お礼状の内容を読んで概要を把握し，自分の体験と照らし合わせながら，感想や意見を書いたり，述べたりすることができる。

〔本質的な問い〕

どうすれば，職業体験で経験したことを説明したり，働くことに対する自分の意見や感想を相手に伝えたりすることができるのか。

〔永続的な理解〕

あるテーマについて相手に自分の体験や意見を述べるとき，まずは自分の考えをまとめる必要がある。意見をまとめる際は，トピックセンテンスで自分の立場を明らかにし，サポーティングセンテンスで理由や根拠を述べ，コンクルーディングセンテンスでまとめを述べるという内容にすれば，論理的な内容の英文にすることができる。

(ウ) 評価目標と評価方法

評価目標（観点）	評価方法（視点）
①積極的に自分の意見を述べようとしている。（コミュニケーションへの関心・意欲・態度） ②体験したことを説明したり，英文でまとめたりすることができる。(外国語表現の能力) ③体験したことが書かれた内容を読んで理解することができる。　(外国語理解の能力) ④意見を述べる，説明する，申し出る，描写するなどの表現を理解している。（言語や文化についての知識・理解）	◎パフォーマンス課題 あなたは，６月に職業体験学習をしました。ミクの体験したことや感じたことを参考にして，あなたが体験したことについて説明したり，感想を述べたり，働くことについて自分の意見を述べたりして，友だちと英語で意見交換しなさい。 ○観察　(評価項目の①④) ○ワークシート　(評価項目の②③)

(エ) 指導計画（全６時間）

○学習内容	○評価規準（観点）	時間
○to 不定詞の名詞的用法を含む文構造を理解し，それを使って表現する。 ○to 不定詞の副詞的用法を含む文構造を理解し，それを使って表現する。 ○to 不定詞の形容詞的用法を含む文構造を理解し，それを使って表現する。	◇to 不定詞の名詞的用法の文構造を理解し，正しく適切に使用している。（知識・理解） ◇to 不定詞の副詞的用法の文構造を理解し，正しく適切に使用している。（知識・理解） ◇to 不定詞の形容詞的用法の文構造を理解し，正しく適切に使用している。(知識・理解)	3
○職業体験について話している対話文の内容を理解し，意見や感想を述べる。 ○職業体験について書かれた日記の内容を読み，自分の体験を踏まえて説明したり，意見を述べたりする。 ○職業体験に対するお礼の手紙の内容を読み，自分ならどう書くか考える。	◇積極的に意見や感想を述べようとしている。（関心・意欲・態度） ◇内容について正しく理解している。（理解） ◇内容に関連のある話題で話をしたり，意見や感想を友だちと述べ合ったりしている。（表現） ◇お礼の気持ちが込められた内容になっている。（表現）	3

(オ) 授業の実際（５／６時間）

① **主　題**　日記の内容を理解し，自分の体験を踏まえて説明したり，意見・感想を述べ合ったりしよう。

② **ねらい**

○日記の内容について正しく理解することができる。

○自分の体験を踏まえて体験内容を説明したり，意見や感想を述べ合ったりすることができる。

③ 展　開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ　•生徒の反応	○指導の工夫　◇評価（方法）
1　2分間チャットを行う。 （グループ→一斉）	6	○Today's Topic: Where do you want to go? • I want to go to Australia because I want to hold koalas. How about you?	○事前に書いた英文を読むだけに終わらないように，発表が終わってからワークシートに英文を記入させた。
2　日記の内容を理解する。 （一斉→個人→グループ→一斉）	20	○新出語句を確認しよう。 ○内容に関するQ－Aに答えよう。 Q：Why did Miku and her friends go to a supermarket on October 22? A：Because they worked there. Q：How did all the vegetables at the supermarket look? A：They looked nice and fresh. Q：Did the customer know the way to the fruit and vegetables section first? A：No, she didn't.	◇日記の内容を正しく理解できている。　（ワークシート）
		○イラストの内容に合うように，英語で場面や状況を説明しよう。 • Miku and her friends went to the supermarket for their career experience. • First, Miku and her friends had a morning meeting. • After Miku and her friends practiced greetings, they started to work. • A woman was looking for bananas, but she didn't find them. ○音読練習をしよう。	**○班員からアドバイスをもらいながら，よりよい説明になるよう工夫させた。**
3　自分の体験を踏まえて，日記の内容について意見や感想を述べる。 （グループ→ペア）	20	○自分の体験を踏まえて，日記の内容について意見や感想を述べ合おう。 • I like to work because it is interesting. • I wanted to work more. • Miku and I had the same feeling. • I worked in RNB. • I think smiles are important. ○グループ以外の人と意見交換をしよう。	◇自分の体験を踏まえて体験内容を説明したり，意見や感想を述べ合ったりすることができている。　（観察） **○主語＋動詞が整った文を使って根拠を明らかにしながら述べさせたり，６Ｗ１Ｈを用いて質問させたりして，相互の考えを深めさせた。**
4　学習内容を振り返る。（個人）	4	○意見交換した活動について振り返ろう。 • 既習表現を使って，自分の意見や体験を述べることができた。 • 単語が分からなくて，自分の考えが言えなかった。 • 英語を書いたり話したりすることに対する苦手意識が減った。	○ワークシートで自己評価させ，本時の活動を振り返らせた。

イ　生徒の学びの実際

ミクの日記の内容を示したイラストを英文で説明したワークシート（**資料３**）と，職場体験について意見交換したときのワークシート（**資料４**）は以下の通りである。

◎　ミクの日記の内容に出てくる場面を英文で説明しましょう。

1		Miku and her friends went to a supermarket to work for a day.
2		First, they had a morning meeting and practiced greetings. Sana's aunt and her husband taught them to Miku and her friends.
3		After that, they went to the fruit and vegetables section to package new vegetables. Then they put them on the stands. All the vegetables looked nice and fresh.
4		A customer asked Miku, "Where are the bananas?" Miku showed the way to her and she said "Thank you." So Miku was happy. Miku really enjoyed her day today.

資料３　日記の内容の説明

◎自分の職業体験はどうだったかな。振り返ってみよう。→グループで意見交換

Japanese（メモ）	English（文）
1職業：マスコミ	The media
2場所：愛媛CATV	I went to Ehime CATV station.
3体験したこと（簡単に説明）	I experienced programming.
○番組制作.	First, I had ideas about an interview.
（考える→取材→編集）	Next, I collected data and information.
	I edited the contents of letters, voice, BGM etc.
4感想（体験後）	I was busy. But I felt happy because many
忙しかったが，視聴者のためにやっている仕事と実感した。	TV viewers enjoyed our program.
	I learned the way to make a good program for viewers.
5意見（働くとは？）	
人の役にまつこと	I think that to work is to be useful for people.
誰かの役にまつことはたいせつだ。	It is important for someone to help.
6質問（相手に）	
働くことをどう思いますか。	What do you think of working?
あなたは将来何になりたいですか。	What do you want to be in the future?

資料４　職場体験についての意見交換

〔出典：学校図書株式会社「TOTAL ENGLISH 2」〕

以上のように資料３では，場面に応じた説明を英語で書くことができている。また，資料４では，自分の体験をもとに，職場体験についてグループ内で紹介したり，質問し合ったりすることができている。

本実践後，生徒に対して内容の読み取りと職場体験の紹介について評価と振り返り（２年生36名）を行った。その結果と生徒の感想を以下に示す。

（４：よくできた　３：できた　２：あまりできなかった　１：できなかった）

番号	評価項目	評価			
		1	2	3	4
①	４人グループのチャット（Today's Topic: Where do you want to go?）で自分のことを話すことができた。	2	3	13	18
②	４人グループのチャット（Today's Topic: Where do you want to go?）でグループの人に質問することができた。	1	6	9	20
③	Lesson ５B（ミクの日記）の内容を正しく理解することができた。	1	4	13	18
④	Lesson ５B（ミクの日記）について示されたイラストを英語で説明することができた。（**話す**）	1	6	15	14
⑤	Lesson ５B（ミクの日記）について示されたイラストを英語で説明することができた。（**書く**）	1	5	17	13
⑥	職場体験に関する意見交換で，英語で自分の体験を説明したり，意見や感想を述べたりすることができた。	0	8	16	12
⑦	職場体験に関する意見交換で，話を聞いてグループの人やペアの人に英語で質問することができた。	2	12	12	10
⑧	本文の内容について示されたイラストを英語で説明したり，内容のテーマ（今回は職業体験）に関する意見交換をしたりすることによって，内容をより深く理解することができた。	1	5	16	14

(生徒の感想)

○今まで習ってきた文法を駆使して英文を考えることが楽しかった。また，他の班の意見を聞くことで新たな視点を身に付けることができた。

○自分の今持っている知識（単語や文法）を最大限に使おうと努力することができてよかった。

○より相手に上手く伝える言い方はないか考えることができた。

○臨機応変に対応する英語力が必要だと思った。

○意見を考えようとしたときに，分からない単語がたくさんあって，単語力が必要だと思った。

○自分とは違った意見もあり，おもしろいし，考えを広げることができた。

教師によるパフォーマンス評価

評価の項目	評価	評価の観点	人数
内容理解	A	場面，状況，登場人物の行動などを理解し，本文に書かれた事実内容以外も理解している。	9
	B	場面，状況，登場人物の行動など，本文に書かれた事実のみを理解している。	25
	C	本文の内容が理解できていない。	2
表現（書く）	A	主語＋動詞～が整った英文を使って，具体例，根拠，理由などを明確に書くことができた。	11
	B	主語＋動詞～が整った英文を使っているが，内容にまとまりがない。	24
	C	整った英文になっていない。(単語のみの羅列など)	1

4　成果と課題（○成果　●課題）

ワークシートの分析や教師の観察による評価，生徒の自己評価をもとに，以下のような成果と課題を示す。

○英語で話す機会を持ちたいと考える生徒が多いため，英語での意見交換は楽しんで取り組める活動になった。

○単なるスピーチや単語を並べただけの対話ではなく，相手の意見を聞いてその内容に関連させた内容を述べたり，根拠や理由を含めた英文を述べたりする必要性を高めることができた。

●語彙力の未熟さから，即興や臨機応変に対応する難しさがある。

●生徒同士が１対１で意見を交換し合う英語力を高める必要がある。

●状況を説明するための，語彙や話型を提示するなど工夫が必要である。

参考文献

田中武夫・島田勝正・紺渡弘幸（2011）「推論発問を取り入れた英語リーディング指導深い読みを促す英語授業」三省堂

中嶋洋一・直山木綿子・久保野雅史（2017）「『プロ教師』に学ぶ真のアクティブ・ラーニング“能働”的な英語学習のすすめ」開隆堂出版

田中武夫・田中知聡（2010）「英語教師のための発問テクニック英語授業を活性化するリーディング指導」大修館書店

学校図書株式会社（2016）「TOTAL ENGLISH 2」P70

研究（その２）

自律的学習者が育つ英語授業

― インタラクティブなリーディング指導を通して ―

（実践者）河野　圭美

１　研究テーマ設定の理由

グローバル化社会の進展，東京オリンピック・パラリンピック開催に伴い，次代に生きる生徒には，英語でコミュニケーションする力が更に必要となる。そのために，英語を知識として蓄積するだけの学習者ではなく，学んだことを積極的に使っていき，更にそれらを伸長させようとする自律的学習者を育成しなければならない。

また，持続可能な社会を形成するために，異なる文化や歴史的背景を持つ人々と共存し，課題をよりよく解決することができる資質や能力が求められている。そのために，様々な考えを持つ人々が良好な関係を築きながらコミュニケーションを図っていくことが必要である。良好な関係の上に成り立っているコミュニケーションとは，相手の言いたいことを理解して適切に応じたり，自分の言いたいことを相手に分かりやすく伝えたりすることである。つまり，論理的に思考し，適切な表現や態度で表現する力である。昨年度までの研究において，ペアやグループでの学び合いが，生徒の自律性や学習成果を高めるのに有効であることが分かった。本年度も，仲間と共に学び合う関係において，論理的に思考し，適切な表現や態度で表現する力を発揮することを通して，学びの質や生徒の主体性を高め，コミュニケーション能力の向上につなげたい。

仲間と共に学び合う中で，「自律的学習者が育つこと」を意図して授業を構成することにより，自分の気持ちや考えを表現し伝える力を育成することができると考え，本研究テーマを設定した。

２　研究の内容及び方法

(1)　論理的に思考し表現する学び合いの工夫

英語科では，論理的に思考し表現する力を，「相手が理解できるように筋道を立てて分かりやすい英語で表現する力」としている。この力を育成できるよう，以下の二つのことを実践する。

一つ目は，教科書本文の内容理解の際，生徒たちに質問を作らせることである。生徒は「問答ゲーム」や，英語科で１年生の頃から行っているパフォーマンステストを通して，６Ｗ１Ｈを使って質問をする力を身に付けている。その力を本文の内容理解の際にも活用したい。

二つ目は「話型」を取り入れることである。論理的に思考し，それを表現させるために，まずはその型をしっかりと身に付けさせることが大切であると考え，昨年度より「話型」を用いて話し合わせている。本年度も「話型」を活用し，更に高いレベルのコミュニケーション力を育成したいと考える。

(2)　コミュニケーション能力を高める学習指導

３年生の教科書の内容は，日本文化や環境問題，世界平和などのテーマが取り上げられ，生徒はこれらの学習を通して，今までの自分を見つめこれからの生き方を考えるようになる。教科書を読んで理解した知識を活用して，思ったことや感じたことなどを自由に表現するフリーレスポンスなどの活動を通して，思考力・判断力・表現力を育む技能統合型の授業実践を繰り返し行っていくことで，コミュニケーション能力も更に高められると考える。

(3)　パフォーマンス評価の充実

年に４回，パフォーマンステストを計画しており，その内容は日本文化についてＡＬＴに紹介するものや尊敬する人物紹介などである。その際，論理的に思考し，適切な表現や態度で表現す

る力を測るための評価基準を明確にした評価表を生徒に用いさせる。これらのことは，課題解決に向けて自ら考え解決していこうとする態度の育成につながったり，メタ認知力が高められたりして，自律的学習者に必要な態度や姿勢を身に付けることができる。

3　研究の実際

(1)　生徒の実態

英語に関する興味･関心は高く，積極的に授業を受けている。ペアやグループ活動においても，教え合ったり協力し合ったりしながら取り組むことができる。本年度は，12月までに３回パフォーマンステストを行った。アイコンタクトや笑顔，リアクションなどのコミュニケーションスキルに加え，コミュニケーションストラテジーを積極的に用いて，自然な対話ができる力を身に付けている。また，友だちの発表の後で質問をしたり感想を述べたりできる生徒が増え，対話をスムーズに行う力も身に付けている。クラスの半数以上の生徒は，４技能の中で「話す力」を特に身に付けたいと考えている。友だちとの学び合いを通して，コミュニケーション力を高めさせたい。

(2)　授業の実際

ア　指導の実際

(ア)　**単元名**　TOTAL ENGLISH 2 Chapter 3 Lesson 5 Stevie Wonder－The Power of Music

(イ)　**「逆向き設計テンプレート」による単元計画**

第１段階：求められている結果	
【本単元における目標】 • 関係代名詞を用いて，人や物について詳しく説明することができる。 • スティービー・ワンダーの伝記を読み，彼の主張や思いを理解することができる。	
【本質的な問い】 スティービー・ワンダーの主張や思いを効果的に読み取り，理解するにはどうしたらよいのか。	
【永続的な理解】 まとまりのある英文を読み理解するには，まずは概要をつかむことが必要である。この単元はスティービー・ワンダーの伝記であり，冒頭で述べたスティービー像を後で詳しく説明していく，というパターンで書かれている。その後は，時系列で話が展開し，最後に物語から得られる教訓やメッセージを読み取ることができる。このような文章の構成パターンは英語の文章の特徴の一つであり，６Ｗ１Ｈを意識して文章を読めば，内容を効果的に読み取ることができる。 読み取ったことについて自分の考えや感想を述べる活動を行うことにより，スティービー・ワンダーの主張や思い，メッセージの真の意味を深く考えるようになり，英文への理解を深めることができる。	
【生徒は次のことができるようになる】 • 話型を参考に，スティービー・ワンダーの音楽活動について，自分の意見や感想を聞き手に分かりやすく表現できる。 • 友だちの意見や感想を聞いて，話型を参考に，応答することができる。 • まとまった英文の構成パターンを理解する。 • 事実発問を作ることができる。	
第２段階：評価のための証拠	
【パフォーマンス課題】 あなたは世界各国から中学生が集まって，さまざまなテーマについて英語で話し合う中学生国際会議に参加しています。グループごとに分かれて，自分の意見や感想を発表したり，他の生徒の発表したことについてコメントを述べたりしなければなりません。自分の意見や感想をはっきり述べるとともに，論理的にまとめた内容で発表しなさい。また，今までに学習した表現をできるだけ使いなさい。	
【他の根拠】 • retelling の発表の様子・ペアでのＱ＆Ａの活動の様子・ワークシートによる記述・自己評価表	
第３段階：学習計画	
関係代名詞（主格 who，which，that）を用いた文の構造を理解する。	３時間
Lesson 5A ～ 5D の本文の内容を理解し，スティービー・ワンダーの音楽活動について自分の意見や感想を伝え合う。	４時間
Lesson 5 の学習内容をまとめる。	１時間

(ウ) **授業の実際（5／8時間）**

① **主　題**　スティービー・ワンダーの音楽活動について自分の意見や感想を述べよう。

② **ねらい**

○読み取った内容について質問を作ることができる。

○既習表現を用いて，自分の意見や感想を適切に表現することができる。

③ **展　開**

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ　•生徒の反応	○指導の工夫　◇評価（方法）
1　Lesson 5Aのretellingを行う。 （全体）	5	○絵を参考にしてスティービー・ワンダーについて5文程度で説明する。また，その際自分の考えも述べる。	○retellingを通して友だちの考えを聞くことで，本文の内容理解や自分の考えを深めさせた。
2　英語の歌を歌う。 （一斉）	5	○"We Are the World"を歌おう。	○歌を歌うことで，学習意欲を高めさせた。
3　Description Gameを行う。 （一斉）	5	○関係代名詞を用いて，提示された物について説明したり，答えたりしよう。	○既習の文法を復習させることによって，本文に出てくる文の理解を助けた。
CAN-DO		I can express my idea about Stevie Wonder.	
4　本文の内容を理解する。 （一斉） ↓ （個人） ↓ （ペア）	20 (5) (2) (2) (6) (5)	○新出単語について英語で説明を聞いて理解しよう。 ○本文を1度聞き，内容を大まかに理解しよう。 ○人生のターニング・ポイントになった交通事故の様子について説明を聞こう。 ○本文を読んで，本文に関する事実発問を二つ作り，その後でペアで質問を出し合おう。 • How old was Stevie when he released his first album? • Did his first album make him a big star? ○本文の音読練習をしよう。	○英語で説明することで，単語についての理解を深めさせた。 ○スキーマを与えることで，推論発問に対する自分の考えを持たせやすくした。 **○論理的な思考が身に付くよう，6W1Hを意識して作らせた。** ◇読み取った内容について質問を作ることができる。（ワークシート） ○対話的な学びを通して，理解を深めさせた。また，リスニングやスピーキングの力も高めさせた。 ○デジタル教科書を用いることで，学ぶ意欲を高め，効率的に本文理解と音読をさせた。
5　グループで話し合う。 （個人） ↓ （グループ）	13 (5) (8)	○スティービー・ワンダーについて自分の考えを英語で書こう。 ○グループで自分の考えを伝えよう。また友だちの考えを聞いてコメントを述べよう。 • I think Stevie wanted to help others who have difficulties. • I think Stevie is a strong man, too.	○即興で会話ができるようになるために，メモを取らせた。 **○論理的に思考し，表現できる力が身に付くよう，自分の考えをまとめるときや話合いのとき，話型を用いさせた。** ◇既習表現を用いて，自分の意見や感想を適切に表現することができる。　（観察・ワークシート）
6　本時の学びを振り返る。 （個人）	2	○本時のCAN-DOが達成できたか振り返ろう。	○振り返りを通して，次回の自分の考えを表現する活動への意欲を持たせた。

イ　生徒の学びの実際

生徒に事実発問を作らせたときと，パフォーマンス課題で用いたルーブリックによる評価の結果（３年生１クラス39名対象），事実発問を作らせた時のプリント（**資料１**），フリーレスポンスの時のプリント（**資料２**），感想を言うときの話型（**資料３**），生徒の感想は以下の通りであった。

〈事実発問を行ったとき：教師による評価〉

A'	正しい文法を用いて，本文の内容に関する質問を二つ作ることができた。	13人
A	少々文法に間違いはあるが，本文の内容に関する質問を二つ作ることができた。	22人
B	本文の内容に関する質問を一つ作ることができた。	４人
C	本文の内容に関する質問を作ることができない。	０人

〈生徒の感想〉
○疑問文を作る力（文法力）がついた。
○友だちと質問し合うことでリスニング力も高められた。
○質問を作ることによって，本文の内容をより深く理解することができた。
○本文を何度も読むことで，内容の理解が深められた。
●もう少し本文の内容を理解する時間が欲しかった。

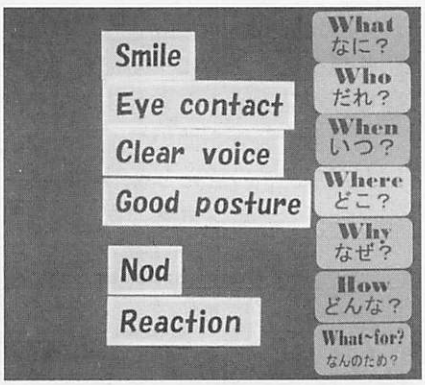
【5A】
Q When was Stevie born?
A He was born in 1950.
Q Did Stevie often enjoy listening to music on the radio when he was a little boy.
A Yes, he did.

【5B】
Q Did he have a car accident in 1973?
A Yes, he did.
Q What did he decide after the car accident?
A He 'decided to' help others who have difficulties.

【5C】
Q Did Stevie take part in two songs?
A Yes, he did.
Q Why was Martin Luther King Jr. killed?
A Because he worked for equal rights for non-whites in the U.S.

【5D】
Q What does Stevie want to make?
A He wants to make the world a better place.
Q Did he sing a song called We Are the World?
A No, he didn't. at the United Nations

資料１　事実発問を作らせた時のプリント



事実発問を出し合う時の手立て



事実発問を出し合っている様子

〈フリーレスポンスのとき：生徒による自己評価〉

１．アイコンタクトをしながら自然な笑顔でできた。

A	自然な笑顔でアイコンタクトをして相手が理解しているかどうか確認しようとした。	24人
B	どちらかができなかった。または，自然な笑顔でできたが，相手が理解しているかどうか確認はできなかった。	15人
C	両方とも不十分であった。	０人

２．大きな声でできた。

A	聞き手に聞こえるように，十分大きな声でできた。	30人
B	少し声が小さいときがあった。	９人
C	声が小さかった。	０人

3．ポーズ（間）をとったり大切な語を強調したりして読んだ。

A	二つとも行い，話す内容を聞き手に伝えようとすることができた。	23 人
B	どちらか一つはできた。	15 人
C	ひとつもできなかった。	1 人

4．自分の意見や感想を述べることができた。

A	自分の意見や感想を理由とともに 45 秒程度述べることができた。	25 人
B	自分の意見や感想を理由とともに 30 秒程度述べることができた。	13 人
C	自分の意見や感想を少ししか話すことができなかった。	1 人

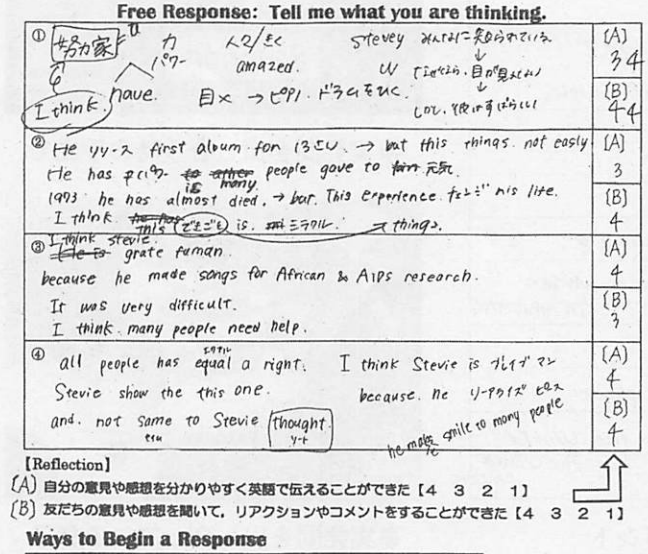
5．友だちの発表に対してリアクションをすることができた。

A	友だちの発表の中で，相づちをうったり関心を表したりすることを数回行い，しかもそれが自然にできた。	23 人
B	相づちをうったり，関心を表したりすることが 1，2 回できた。	15 人
C	相づちをうったり，関心を表したりすることがほとんどできなかった。	1 人

6．友だちの発表に対して感想を伝えることができた。

A	友だちが話した内容について感想を伝えることができた。そして，理由も言うことができた。	20 人
B	友だちが話した内容について感想を伝えたが，理由は言えなかった。	16 人
C	友だちが話した内容について感想を伝えることができなかったが，態度面について伝えた。	3 人

〈生徒の感想〉
○感想を言うために，友だちの発表を集中して聞き取ることができた。
○自分が発表するときも，聞き手に伝わるためにはどうすればよいか考えながら発表することができた。
○友だちの発表を聞いて，様々な表現方法や考えを知り，学びを深めることができた。
○友だちが私の意見を真剣に聞いて，相づちをうってくれたりリアクションしてくれたりして嬉しかった。
○コミュニケーション力が高められた。　○即興で英語を話す力が身に付いた。



資料２　フリーレスポンスの時のプリント

[Comments]

① I think so, too. / I agree with you.

② I don't think so. I think (自分の考え).

③ I think your idea is (good / nice / great / wonderful).

④ I think (友だちが言ったこと), too.
You said, (友だちが言ったこと). I think so, too.

⑤ I don't think (友だちが言ったこと).
You said, (友だちが言ったこと), but I don't think so.

資料３　感想を言うときの話型



フリーレスポンスの様子

4　成果と課題

(1)　論理的に思考し表現する学び合いの工夫

「問答ゲームが英語の授業で役に立っていますか」という質問に対して，生徒は「６Ｗ１Ｈを使うとたくさんの質問が浮かんできた」「相手からの質問に早く答えることができるようになった」「英語での会話がやりやすくなった」などと答えている。また，英語で質問を作らせたことは，生徒が本文を何回も読み，内容を理解することにつながった。しかし，限られた疑問詞だけを用いて疑問文を作っている生徒が多かった。また，英語が苦手な生徒にとっては，自分で教科書の内容を読んで理解することを難しく感じており，二つ質問を作ることができなかった。質問を作らせる前に，本文の内容を教師がどこまで理解させるのがよいのか考えていかなければならない。そして，６Ｗ１Ｈの疑問詞を用いた疑問文の作り方を復習したり，生徒から出た良い疑問文を紹介したりしながら作らせる必要があった。

また，自分の意見や感想，友だちの発表についてのコメントを述べる際，話型を参考にさせた。昨年より，与える語数を減らし，自由度の多い型にした。生徒は，話型を用いながら自分の言葉で話すことができた。また，グループで活動させることで，友だちの良い表現を学び取り，自分の表現の幅を広げることができたようである。

(2)　コミュニケーションスキルを磨く学習指導

Lesson 5 のすべてのセクションで，フリーレスポンスの活動を行った。グループで一人ずつ意見や感想を述べ，それに対して順番に応答していくという形で行った。回を増すごとに，自分の意見や感想を述べる時間が増えていったり，即興で話せるようになったりした生徒が増えた。生徒自身も，コミュニケーション力が高められたと実感しており，この活動を今後も続けてほしいと感じている。また，この活動を通して，スティービー・ワンダーの生き方から，自分の生き方をより深く考えることができたようである。今後も，学んだ知識をアウトプットの活動や日々の帯学習の時間などでどんどん使わせることを継続していきたい。また，決められた人ではなく，自由にグループの中で自分の意見や感想を話し，それに対して，だれもが自由に応答したり質問したりすることができるインタラクティブな活動になるよう工夫したい。

(3)　パフォーマンス評価の充実

１年生の頃から年に数回パフォーマンステストを行ってきた。評価項目は，少しずつ項目を増やしたり，ルーブリックの内容を生徒の実態やパフォーマンスの内容に合わせて変更したりしている。毎回，テスト後に教師の評価もフィードバックすることで，生徒は自分の課題を見付け，表現力とメタ認知能力の向上につながっている。１年生の頃はルーブリックのアイコンタクトや笑顔，声の大きさの項目において全体的にＢの評価が多かったが，３年生になると，ほとんどの生徒がＡの評価になった。このように，英語のスピーキングスキルの上達につながり，そのことが今回の研究において，ペアで質問を出し合う際やフリーレスポンスの際にも役立っていた。

また，Lesson 5 の本文内容理解のフリーレスポンスの活動において，自分の意見や感想を分かりやすく英語で伝えることと，友だちの意見や感想を聞いてリアクションやコメントをすることについて，毎回自己評価をさせた。ルーブリックを用いさせることで，生徒はコミュニケーションを図る際，どのような姿が良いのか具体的に知ることができ，相手を意識したコミュニケーションを図ることができた。そして毎回，自らの学びを振り返ることで成長につなげることができた。今後も，生徒のメタ認知や自信を高め，主体的にコミュニケーションを図っていく姿勢を目指した評価のあり方について考えていきたい。

第３章　おわりに

論理的思考力を高めるために，学校全体の取組として，問答ゲームを週１回行っている。英語科では，そのことを生かして，相手に自分の意見を伝えるときは，主語と動詞が整った英文を使うこと，相手と対話するときには，６Ｗ１Ｈを意識して質問することを言語活動の中で指導してきた。単なるスピーチや説明だけに終わることなく，英語を介してお互いにやり取りや意見交換ができる能力を身に付けさせたい。２年生では，内容を深く理解し，その内容について質問させる活動，３年生では，テーマについて意見交換させる活動を行い，論理的思考力と表現力が向上するよう実践を積み重ねた。その結果，質問する，理由や根拠を含めて意見を述べるなど表現の型の定着は見られたが，語彙力の少なさによって表現する内容の質が高まらないという課題もあった。